

日韓高校生交流の現状と課題¹ —広島県立海田高等学校の姉妹校交流を中心に—

新長 太(広島県立海田高等学校)

1. はじめに

本発表では、広島県立海田高等学校における第二外国語としての韓国語授業および韓国姉妹校交流の取組について、その背景と経緯を概説する。また、生徒による多岐にわたる韓国に関連した交流形態を考察する。さらに、複言語・多言語教育の観点から、令和 6 (2024) 年度は韓国姉妹校交流プログラム参加者を対象に実施した事前・事後アンケート分析を行い、今後の課題や展望等について検討を加える。

海田高等学校は、創立 82 年を迎える伝統校である。全日制の普通科と家政科を併設し、全校生徒は約 850 名である。また、SDGs 委員会とコリア文化同好会、生徒会執行部を中心に、日本ユニセフ協会への募金活動を行っている。令和 6 (2024) 年は、第 26 回広島ユネスコ活動奨励賞を受賞した。

2. 韓国姉妹校交流と参加者アンケートの概要

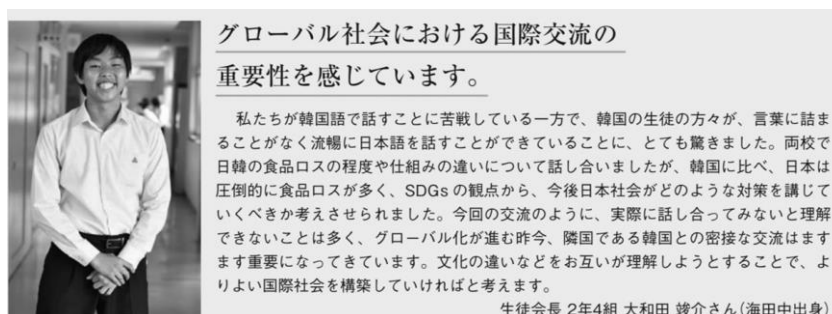
広島県立海田高等学校には、韓国に姉妹校が 2 校ある。平成 24 (2012) 年 5 月 9 日にソウル市の明德(ミョンドンク)女子高等学校と、平成 30 (2018) 年 2 月 20 日に仁川(インチョン)市の桃林(ドリム)高等学校と姉妹校提携を締結した。令和 6 年度の桃林高等学校訪問プログラム参加者に、アンケートを実施し分析を行った。日韓高校生交流事業(2022)報告書を基に、Google Forms で実施した事前および事後アンケートにおいては、日本人の外向き志向率における変容を 10 段階尺度で明らかにした。実際のアンケートの調査項目の一部抜粋は次のとおりである。

- ・ 私は、韓国の友人と韓国の高校の授業を受けたい。(※事後アンケートのみで実施、傍点は筆者)
- ・ 私は、韓国でホームステイをしたい。(※事後アンケートのみで実施、傍点は筆者)
- ・ 私は、交流した外国の人と将来も繋がりを持ちたい。(※今回のアンケートでは韓国人とした)
- ・ 私は、外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい。
- ・ 私は、日本人として世界に貢献したい。

3. 結果と課題、展望

第 1 に、「日本人として世界に貢献したい」が 16 名(84%)、「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい」が 18 名(95%)、「交流した韓国人と将来も繋がりを持ちたい」が 16 名(84%)とあるように、今回の姉妹校訪問プログラム参加者の外向き志向率は、3 項目を平均した約 88%と結論づけた。第 2 に、事後アンケートで、16 名(84%)が「韓国の友人と韓国の高校の授業を受けたい」、15 名(79%)が「韓国でホームステイをしたい」と回答したことから、参加者がオンライン交流に比べ、対面交流の重要性を認識していることがうかがえる。筆者は、姉妹校プログラムを運営する教員として、この 2 点は今後の交流事業に組み込むべき重要な柱であろうと考えた。

課題として、第 1 に、持続可能な国際交流の観点から、文部科学省等が主導する全国公募による日韓高校生交流プログラムの開発が必要だろう。第 2 に、SDGs の諸課題について、日韓の高校生が共同で議論することができるプラットフォームの構築が必要だろう。第 3 に、日韓高校生交流の加速化を実現するために、日韓の高等学校同士で姉妹校提携を増やすことが必要だろう。



令和 3(2021)年度の海田高等学校の学校案内に掲載されたコリア文化同好会所属の当時の生徒会長の言葉

¹ 詳細は、『複言語・多言語教育研究』No.12 (2024) に掲載予定である。